

平成 26 年度インターンシップ実施報告

— より多くの学生のためのキャリア教育を目指して —

The Internship Program in 2014:
Increasing Student Numbers in Career Education

奥村 哲*1, 野崎孝志*2, 土肥稔*3, 関山秀雄*4
三原康司*5, 大石和臣*6, 青島偉夫*7, 吉國博昭*7

Tetsu OKUMURA, Takashi NOZAKI, Minoru DOHI, Hideo SEKIYAMA,
Koji MIHARA, Kazuomi OISHI, Hideo AOSHIMA, Hiroaki YOSHIKUNI

Abstract: Our Internship has been introduced into the curricula of Shizuoka Institute of Science and Technology (SIST) since 1999. This report presents the discussion about the preparation, the organization and the results of the internship program conducted in 2014. In 2014, 96 companies in Shizuoka prefecture were involved in this program by providing their own internship programs for 226 students and 98 students participated in the programs. In addition, another 6 students participated in spring. The results of this program's past 15 years are summarized and its future prospects are presented.

1. はじめに

本学のインターンシップは、平成 11 年度に試行を行い、平成 12 年度から授業の一貫として単位を付与して実施している。本制度も開始から 15 年を経過し、企業との相互理解も深まってきている。また参加学生数もこの 2 年間は約 100 名に達している。このように、本事業は人材育成の手段のひとつとして、本学のキャリア教育の中で重要な位置を占める事業として定着している。

本報告は、平成 26 年夏期に静岡理工科大学において行われたインターンシップに関して、事業計画、受入企業に対する依頼、参加学生の募集、実習内容、参加学生の成績評価、実習結果の総括など、各段階における経過および結果を昨年度までのデータと比較可能な形でまとめ、本事業によって得られた成果や問題点を明らかにし、来年度以降の実施に向けた改善に資することを目的としている。

特に、学生および受入企業からの報告書を詳細に分析し、学生がインターンシップにおいてどのような内容の実習を行い、成果として何を得たか、また、企業による学生および実習内容の評価などを検討した。さらに平成 11 年度から平成 26 年度までの 15 年間のインターンシップ実施結果を総括的にまとめ、来年度以降のインターンシップに関する展望についても述べる。また、今年度 3 回目の取り組みとして平成 27 年春期に行われる春期インターンシップについても、その取り組みの概要を紹介する。

2. 平成 26 年度インターンシップの計画

昨年度の申し送りとして、以下の点が挙げられていた。

- ① 本学のキャリア支援教育が学生に広まってきたことにより、インターンシップへの関心も高まり、さらに学生の応募数が増加することが見込まれる。このことから、従来の受入れ企業との関係を深めると共に、さらに新規受入れ企業の開拓が必須である。
- ② 実習生の態度や状況について、企業からの評価の一部に良好とはいえないものもあり、事前研修を通して基本的なビジネスマナーを身につけさせる必要性が年々高まっている。

2015 年 3 月 7 日受理

*1 インターンシップ WG リーダー, *2 機械工学科, *3 電気電子工学科, *4 物質生命科学科, *5 人間情報デザイン学科, *6 コンピュータシステム学科, *7 キャリア支援課

- ③ 春期インターンシップのあり方についてより具体的に検討する。

平成 26 年度インターンシップは、これらの問題点を改善するため、以下の事業を取り入れた。

- ① 新規インターンシップ受入れ企業開拓に取り組んだ。
- ② 企業側への受入希望調査を一昨年、および昨年同様 4 月に開始した。
- ③ 企業からの全提出物を昨年同様 Web 上で入力できるようにし、インターンシップ受入れ申込み、実習報告、評価作業等の効率化によって企業の負担を軽減した。
- ④ 学生からの書類提出や手続きを主にキャリア支援課で取り扱い、同時に挨拶や言葉遣いの指導も行った。
- ⑤ 昨年度に引き続き春期インターンシップを行った。

上記施策により、事務的作業の効率化と簡便化を図りながら、学生の積極性の向上と意欲の喚起を図り、より高い教育効果が得られるインターンシップの実施を目指した。

3. 受入企業への協力依頼

地域社会との密接な連携を特色とする本学の教育の中にあつて、インターンシップ制度は地域産業との連携による、地域に役立つ人材の育成、地域の企業や地域社会との交流の推進などの観点から重要な役割を負っている。協力依頼企業の選定にあたっては、過去 15 年間の受入依頼の発送状況や、これまでの就職状況などを充分に考慮し、以下の条件で依頼状送付企業の選定を行った。

- ① 昨年まで依頼状を送付したが返事の全くない企業、インターンシップ不可の返事をいただいた企業を削除。
- ② 平成 25 年度卒業生の就職先企業のうち、通勤可能な地域の企業を追加。
- ③ 春期インターンシップに関する企業アンケートにおいて、夏期インターンシップ受入れが可能と解答のあった企業、インターンシップに前向きな企業を追加。
- ④ 求人ナビ登録企業の中で、インターンシップ受入れが可能で、通勤可能な地域の企業を追加。
- ⑤ 通勤可能な地域の市役所、図書館などを数件追加。

上記条件で選考の結果、インターンシップ受入れの可能性の低い事業所を削除するとともに、新たな事業所を追加し、4 月に、550 社(昨年度は 445 社)に対してインターンシップ事業の協力依頼を実施した。その結果、平成 26 年度においては、96 社・226 名分(昨年度は 74 社 175 名分)の実習テーマ受入申し込みがあった。景気状況的には平成 26 年度は円安やアベノミクスによる株高等を背景に明る

表1 実習先受入企業一覧表
 (受入回答企業 96 社, 募集人数 226 名, 実習実施事業所 57, 60 テーマ, 実習学生 98 名)

No.	会社名	実習地	テーマ	期間	日数	受入人数	実習人数
1	株式会社アーティス	浜松市中区	ウェブサイト制作に関する業務を理解する	8/4-20	10	1	1
2	アイティ・インターナショナル株式会社	静岡市葵区	コンテンツと IT の実習	8/4-8	5	2	2
3	株式会社アクティ森	周知郡森町	接客を通してサービス業を学んで頂きます。	8/4-17	14	2	2
4	ASTI株式会社	浜松市南区	車載電装品, 又は制御機器の設計評価	8/19-24	20	1	1
5	天方産業株式会社 (IT営業)	浜松市中区	サーバとネットワークについて	8/25-9/12	10	1	1
6	石原水産株式会社	焼津市	サービス業を通しコミュニケーションと仕事をする意義を見つける	8/4-8	5	5	1
7	磐田信用金庫	磐田市	信用金庫を理解しよう	8/4-8	5	3	3
8	株式会社ウィンウィン ピーターパン あおいの杜静岡葵店	静岡市	パン作りを通して, お客様に喜んでいただける仕事をする。	9/10-14	5	2	2
9	株式会社ウィンウィン ピーターパン小 麦市場	焼津市	パン作りを通して, お客様に喜んでいただける仕事をする。	9/10-14	5	2	2
10	株式会社ウィンウィン ピーターパン するが工房	静岡市	パン作りを通して, お客様に喜んでいただける仕事をする。	8/13-17	5	2	2
11	株式会社エーピー アイコーポレーション 袋井工場	袋井市	微生物を用いての発酵実験及び発酵液からの有用物精製実験	8/4-8 8/18-22	10	2	2
12	エズカ工業株式会社	磐田市	機械等の部品製作の補助, 検査, 組立, 及び事務業務	9/2-13	10	1	1
13	株式会社エヌエス ティ	浜松市新都田	電子機器製作における基本的な作業や簡単な検査業務	9/1-12	10	1	1
14	株式会社エフ・シ ー・シー 竜洋工場	磐田市	未定	9/11-24	10	6	3
15	遠鉄グループ (幹事 会社 遠州鉄道株式 会社)	浜松市中区	未定 (5 月下旬確定)	9/2-8	7	1	1
16	株式会社オーミ	磐田市	物づくり (製造業) の仕組みを体験できる。	9/8-18	9	2	2
17	株式会社小楠金属工 業所	浜松市西区	精密機能部品の切削加工と生産技術	9/1-12	10	1	1
18	株式会社かきこや	浜松市	明るく元気な接客	9/1-20	10	2	2
19	掛川市役所	掛川市		9/1-5	5	1	1
20	株式会社木村铸造所	駿東郡	CAD/CAM 実習を通して, IT 技術がどのように铸造で活かされているかを確認する	9/9-19	10	10	1
21	株式会社サンテック	藤枝市	自動化装置の製作過程及び基本構成の修得	9/1-12	10	2	1
22	静岡ビルサービス株 式会社	袋井市	建物, 維持管理	8/4-7 8/19-22	8	1	1
23	株式会社システック	浜松市北区	インターンシップを通して, 「何のために働くか」「働く意味・意義」を考える	9/1-12	10	2	2
24	株式会社静鉄ストア	静岡市葵区	接客, 販売, 製造, 清掃, 荷出しなど	8/18-29	10	2	1
25	株式会社ショーワ 2 輪サス開発部	袋井市	二輪用ショックアブソーバの開発業務	9/8-19	10	1	1
26	島田市役所	島田市	学生の希望する業務について個別に受け入れが可能か打ち合わせさせていただきます。	9/1-5	5	1	1
27	株式会社榛葉鉄工所	掛川市	マフラー製造工程の実習とエクセルを使った管理資料作成	8/18-29	10	2	2
28	株式会社鈴英	藤枝市	中古車・流通の仕組みを学び, 車の査定から商談, 売却, 自動車販売に関する仕事を肌で感じてもらう。	8/20-25	5	2	1

No.	会社名	実習地	テーマ	期間	口数	受入人数	実習人数
29	鈴与システムテクノロジー株式会社	静岡市清水区	チームで協力してひとつの仕事を完成する	9/8-12	5	1	1
30	株式会社セイユー富士芝川工場	富士市	未定	8/18-22	5	2	1
31	大学産業株式会社	浜松市南区	社会体験を通じて、人格形成と進路選択に役立てる	8/11-15	5	1	1
32	タイエレクトロニクスジャパン合同会社(製品技術)	掛川市	最新の製品を生み出す製品開発プロセスを体感する	9/1-12	10	3	3
33	タイエレクトロニクスジャパン合同会社(製造技術)	掛川市	世界最高水準にある製造技術とそれを下支えする諸改善活動を体感する	9/1-12	10	3	3
34	高松電機株式会社	浜松市東区	自動制御がどういうものか、どのようなところで必要とされているのかを見ていただく	9/8-19	10	2	2
35	竹原産業株式会社	袋井市	お客様対応力	8/2-6	5	2	2
36	株式会社田子重	焼津市	ふだんの生活を支えるスーパーマーケットで働いてみませんか	8/4-8	5	2	2
37	袋井市文化協会グループ月見の里学遊館	袋井市	文化施設での事業の企画運営を体験できます	8/3-5 8/18-24	10	2	2
38	東海サーモエンジニアリング株式会社	浜松市	空調設備の設計実習, 冷媒配管加工実習	8/4-19	10	2	2
39	東名電機株式会社	富士市	配電盤・制御盤の組立	9/1-12	10	2	1
40	株式会社日本平ホテル	静岡市清水区	お客様の期待を超えるサービスとは	8/20-24	5	2	1
41	法多山尊永寺	袋井市	参拝者の目線を大切にした境内管理	9/1-5	5	3	3
42	浜松鉄工株式会社	磐田市	熱処理業務の理解・熱処理作業・熱処理関係品質確認業務	9/1-12	10	2	2
43	浜松ファイナシャルプランナーズ事務所株式会社	浜松市中区	事務補助	8/4-15	10	1	1
44	袋井市役所	袋井市	公務員の仕事を知る.	8/4-9/17	11	3	3
45	藤枝市役所(藤枝市駅南図書館)	藤枝市	図書業務の習得	8/5-15	10	2	2
46	富士川まちづくり株式会社(富士川楽座)	富士市	科学館での接客 及び プラネタリウム番組の投影	8/6-8 8/10-12	6	4	3
47	富士ゼロックス静岡株式会社 浜松支店	浜松市中区	ゼロックス複合機を活用した, オフセット印刷業務の流れを学ぶ	9/1-14	10	1	1
48	ポラ化成工業株式会社	袋井市	未定	8/4-8	5	1	1
49	ホットファーム株式会社	浜松市西区	農産物の生産から販売までを通して, 農業の課題について考える.	9/8-12	60	2	1
50	株式会社ホテル銀水荘	賀茂郡	銀水荘で日本旅館のおもてなしを学ぶ	8/19-9/1	14	4	1
51	株式会社ホンダクリオ富士	富士市	社風を知る	8/18-22	5	2	2
52	松本印刷株式会社	榛原郡	営業, 制作, 仕上加工, 総務まで幅広く研修内容を取り揃えております. 何をテーマとするかは要相談	8/18-22	5	1	1
53	焼津図書館	焼津市	図書館業務一般	9/11-15	5	1	1
54	矢崎化工株式会社	静岡市駿河区	物流改善機器, 福祉介護機器など商品開発, 製品組立に関わる研修(検討中です)	8/18-29	10	1	1
55	やまと興業株式会社	浜松市浜北区	商品の開発から納入まで	9/10-24	7~ 10	3	3
56	ヤマハモーターエレクトロニクス株式会社	周智郡森町	技術試作と評価に関する実習	9/3-16	10	2	2
57	ユニ・チャームプロダクツ株式会社	掛川市	モノ創りの面白みを体感する	8/4-8	5	3	3
58	ユニクラフトナグラ株式会社	湖西市	生産改善・マシンオペレータ	9/8-19	10	1	1
59	六興電気株式会社	静岡市	施工管理業務, 事務補助業務の体験	9/8-12	5	2	2
60	静岡市役所(一般公募)	静岡市駿河区		9/1-5	5		1

表2 実習学生の学年・学科別人数

学科	2年	3年	院1年	計
機械	1	20		21
電気電子		16		16
物質生命	1	21		22
コンピュータ		25		25
人間情報		13		13
大学院			1	1
計	2	95	1	98

表3 実習企業地域別内訳

市名	人数	市名	人数	市名	人数
浜松市	15	焼津市	4	島田市	1
静岡市	9	富士市	3	湖西市	1
袋井市	8	藤枝市	3	芝川町	1
掛川市	5	森町	2	清水町	1
磐田市	5	吉田町	1	東伊豆町	1

表4 インターンシップ事前・事後研修会、報告会 出席者状況

学科	第1回	第2回	第3回	報告会	計(のべ)
機械	58	29	26	20	133
電気電子	57	25	18	17	117
物質生命	48	24	23	22	117
コンピュータ	41	23	25	23	112
人間情報	31	19	12	13	75
大学院	3	2	2	0	7
計	238	122	106	95	561

い見通しが広がりつつあった。一部に消費税増税等の影響も残っていたものの、受入れ企業数、受入れ可能募集人数ともに昨年より増加した。これは本学のインターンシップ制度への地元企業の理解が広まってきた事と、依頼企業の選択に関して、事務局職員の多大なる努力の成果である。

4. 参加学生募集と派遣企業の決定

4月の履修ガイダンスなどを利用し、全学学生に対して事前研修およびインターンシップ実習への参加要請を行った。また、報告書の提出と報告会および事後研修全てに参加しなくては単位の取得ができないことを告知した。その上で、インターンシップ参加希望者には4月8日の第1回の事前研修をはじめとして、全3回の事前研修を実施した。参加希望学生と派遣企業の決定に当たっては、受入れ企業側から提示された「実習テーマ」をもとに、学生が実習内容をよく検討した上で希望企業を選定し、第5希望までの受付を行った。希望学生が実習定員を上回った企業については、学生の意欲や専門分野と実習内容の関連等を考慮して選考を行った。また、学生の通勤の可能性についても検討し、通勤に特に時間がかかりそうな学生については個別に確認を行い、派遣学生を決定した。このように、極力学生の希望が優先されるよう配慮し、60実習実施テーマ(同じ会社の別事業所・別テーマは別数でカウント:実施会社・組織数は57)(昨年度は同56テーマ)に98名(同105名)の実習生を派遣することができた。実習生を派遣した企業ごとの実習期間、派遣実習生の人数などの一覧を表1に示す。また表2および表3に、学年別および学科別の実習生数の内訳および受入れ企業の地域別内訳を示す。

5. 事前教育について

前述したように、4月8日から3回にわたり事前研修会を開催し、インターンシップを受けるにあたり、基礎的必要事項や心構えなどを説明した。第1回事前研修は、238名(昨年度は261名)の参加があり、300講義室での開催となった。第1回事前研修の内容は、インターンシップの概要とインターンシップに参加する上での考え方や心構え、履修手続き等について説明を行った。また、近年採用

に際して特に重視されている社会人基礎力について改めて紹介し、この力を養うためにインターンシップを役立てることができることを強調して、十分な動機付けを行った。第2回事前研修では、実際に昨年度インターンシップを行った先輩による体験報告、および、実習先決定報告書や履歴書等の作成についての説明を行った。第3回事前研修では、実習に出向くにあたっての諸注意事項、報告書類等提出物の説明をおこなった。以上3回の事前研修によって、学生の動機を十分に高めるとともに、ビジネスマナーの重要性に関する理解の徹底をはかった。

近年は、初年次からキャリア支援教育がカリキュラムに組み込まれ、十分なキャリア教育が行われているため、昨年同様事前研修は3回とした。3回にわたる事前研修によって明確な目的意識を持った学生を実習先に送ることができたと考えられ、回数に関しては3回で必要十分であると思われる。事前研修への参加者数を表4に示した。各事前研修はビデオに収録し、事前研修当日に実験・実習やその他の理由により参加できなかった学生も、後日DVDを見て内容に関するレポートを提出することにより、事前研修の補講を受けることができるよう配慮した。また、このDVDは春期インターンシップの事前研修にも利用した。第1回事前研修参加者238名(昨年度は261名)の内、98名(昨年度は105名)が企業実習を行うこととなった。第1回事前研修参加者中の実習参加率は41.2%(昨年度は40.2%)となり、参加率は昨年度と比べて微増したが、参加人数は昨年度を若干下回った。しかし、ここ2年は概ね100名の参加者を得ており、これまでの80人台よりは増えている。参加率は県内の他大学を上回っており、現在の方法・体制でインターンシップをおこなう場合、このあたりの人数が1つの目安になると考えられる。

6. 受入れ企業数と参加学生数の推移

インターンシップの実習を行うにあたって、まず本学と実習生受入れ企業との間で「覚え書き」を作成した。これは双方の義務や責任を明らかにするとともに、万一の場合に備えて、実習生の受入に関して大学および企業の双方が遵守すべき事項を確認するためであり、双方が署名捺印した。

表 5 インターンシップ実習テーマの分野別分類

<p>【機械設計・開発などの分野】 産業用機械器具の設計・製作・メンテナンス、機械制御装置の設計・試作・販売、試作機の性能確認、自動化・省力化装置及び各種検査装置等の設計・製作、物流改善機器・福祉介護機器・プラスチック製品・自動車内装部品の開発・生産から販売、輸送用機器部品製造と光技術応用製品の開発・製造・販売。</p> <p>【生産・機械加工・試作・もの作りなどの分野】 自動車・オートバイ用クラッチ・製造、物づくりの基本となる金型作りを最新の設備と職人の技と若手技術者が一体となった物づくり、自動車・オートバイ・農業機械等の精密機能部品製造、銑鉄鋳物製造(プレス金型用、工作機械・産業機械用鋳物製造)、自動車輸送用機器部品製造販売、二輪用マフラー製造、各種プラスチック生計加工品の製造、二輪車・四輪車・汎用機械用エンジン部品及び車体部品の製造、ゼロックス複合機を活用したオンデマンド印刷業務全般、チラシ・カタログ・パンフレット・広報誌などの紙媒体としての印刷、ペーカリー(製造小売業)、紙オムツ・生理用品等の製造。</p> <p>【検査・測定・実験などの分野】 空調調和設備(温度・湿度・空気清浄度などの室内環境の調整)、電気・電子・機械・情報通信のシステム機器と部品取扱い。</p> <p>【電気・電子関係の開発・実験などの分野】 車載電装品・ホームエレクトロニクス・情報通信機器・制御機器等の製造・販売、自動車用コネクタの開発・生産、生産工場の設備(自動制御装置)の設計・製作・施行、輸送機器などの電装部品の開発・製造・販売、電気・通信機器や放送用機器などの多様な製品のLSI設計ソフトウェアの開発・ハードウェア</p>	<p>ECO製品の設計開発・製造、配電盤・制御盤の設計・製造精密自動車部品・精密家電部品の製造・計測器・ロボットシステムの開発・製作、電気設備工事の施工管理。</p> <p>【物質科学関係の開発・実験などの分野】 発酵技術を駆使した医薬中間体・原薬の製造、農業(モモ、ブドウ、キウイ)・ジャム製造販売・農業教育、化粧品製造・研究から生産まで一貫した体制での作り。</p> <p>【情報関係などの分野】 ウェブサイトの構築と運営・ICTソリューションの提供・インターネットを利用したメディア事業・ウェブシステムの研究開発及び提供・インターネット通販事業、コンテンツ(映像系・Web系)制作・ITシステム構築、物流・商流・航空など幅広いシステム開発やデータセンター・ネットワークサービス、客様にトータルソリューションを提供するシステムインテグレータ。</p> <p>【企業経営・管理などの分野】 山と川に囲まれた自然の中でスポーツや工芸体験ができる観光施設の接客サービス、水産製造加工メーカー直営のマリンステーションの接客サービス、金融業、職場体験・グループワーク、スーパーマーケットにおける業務、ビルマンション総合管理、自動車の買取・販売、ホテルにおける業務、ファイナンシャルプラン業務、農産物を生産から販売する地域資源プロデュース業務、自動車ディーラ。</p> <p>【福祉活動・団体活動などの分野】 地方行政事務、地方公共団体事務、公共文化施設における業務、境内管理(清掃・まき割り・伐採など)、受付業務(参拝者への対応など)、図書業務、子供科学体験館・プラネタリウムでの運営補助と接客業務。</p>
---	---

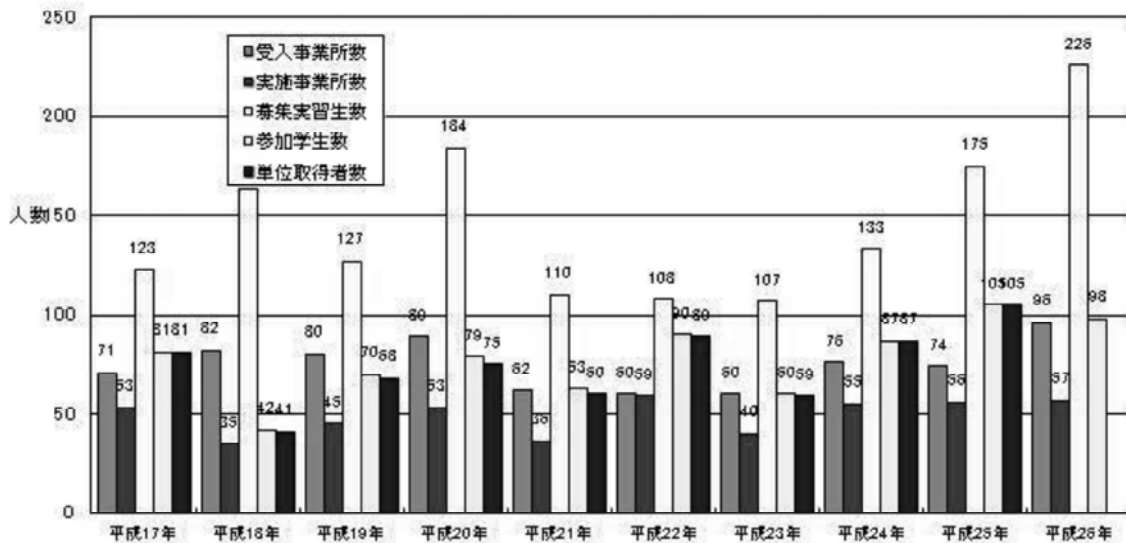


図 1 受入企業等の数および参加学生数(10年間の変化)

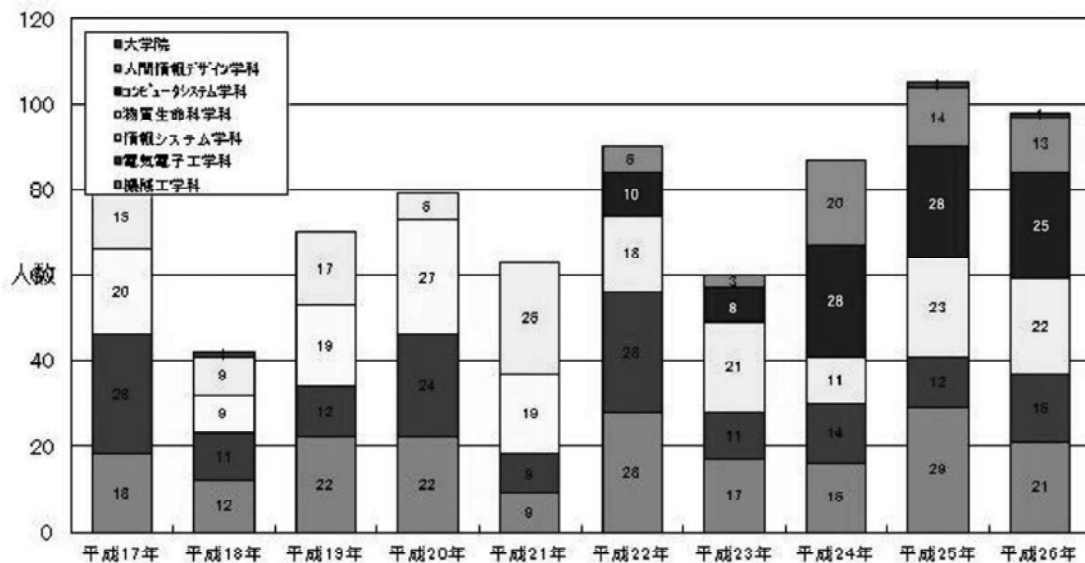


図2 参加学生数の内訳(10年間の変化)

また学生は実習に先立って、参加申込書の提出時に助言教員の承認を受けることになっている。これは本学教員への連絡だけでなく、学生が自から参加の意思を示すことで、キャリア教育への参加の機会を増やすためでもある。

インターンシップ実習は、8月4日から9月24日までの本学の夏期休業期間中に各企業において行われ、滞り無く終了することができた。各事業所における実習期間中は、インターンシップに対する協力の御礼と学生の実習状況の視察を目的として、受入れ企業に担当教員が出向き、実習受入担当者と面談を行った。

本年度に各受入企業等において実施されたインターンシップの実習テーマについて分野別に分類したものを表5に示した。本学でインターンシップを実施した10年間の受入企業数、実際に実習を実施した企業の数、募集学生数、参加学生数、単位取得学生数の変化を図1に示した。今年度は受入れ企業・実施事業所数とも昨年度と同等であったが、募集実習生数は大幅に増加した。また、参加学生数も、キャリア支援教育の成果が現れ、昨年と同等の98名と高水準で推移している。10年間の参加学生の累計は775名となった。参加学生の学科別内訳を図2に示した。本年の特徴は、電気電子工学科の学生の参加人数が増加したことである。なお、実習先の業種が偏っており、希望する分野を活かせる実習を体験したかったという意見は本年度も多く、継続して解決すべき課題となっている。

7. インターンシップで学生は何を得たか？

以下では、学生の実習報告に基づいて、実習によって得られた成果、実習を行った感想、実習に関する反省などについてまとめた結果を報告する。

7.1 実習内容

学生が実際に行った業務内容の詳細を事項別にまとめ、よく行われていた主要な業務内容を図3に示す。「製作、組立、加工」が1位で28.1%、「営業、接客、販売」は21.9%で2位であり、昨年度と同様の順位であった。「実験、測定、試験、分析」は3位で12.5%であったが、昨年度の5.8%に比べると2倍以上に伸びていた。理工系大学にとっては望ましい結果であるかもしれない。

7.2 実習によって得られた成果

「実習の成果」についてまとめたものが図4である。1位の「企業や職場の雰囲気がわかった」は29.5%、2位の「企業の現場を見ることができた」は17.7%で、その他の項目も昨年度とほぼ同順位、同率であった。どのような職場へ行っても、学生の感じる所は等しいと思われる。

アンケートの自由記入欄に「新しい発見が多く大変になった。」、「インターンシップを通して就職に対する意識をしっかりと持つことが出来た。後輩に強く勧めていきたい。」など、インターンシップでの実習が自分のためになった旨の記述が多くみられた。

7.3 実習に関する感想

「実習に関する感想」についてまとめたものが図5である。1位の「貴重な体験ができ、非常に勉強になった」は28.7%、2位の「社会人の責任の重さを実感した」は14.7%で昨年度とほぼ同順位、同率であった。3位の「実習期間は充実して短く感じた」は、一昨年度の7位から浮上し、昨年度4位になった項目であるが、今年は更に順位を伸ばした。さまざまな仕事から充実感を味わえたものと思われる。「問題点の解決が面白かった」は3.5%であり、昨年度の1.9%と比べると、倍近くまで増えているが、これは一昨年度とほぼ同率である。

インターンシップは、現実の厳しさを知り、自分の進路を決めるためのトリガを与える貴重な機会を提供しており、重要な実習の一つであると思われる。今後も、多くの学生をインターンシップに参加させる方策を検討していく必要がある。

7.4 実習に関する反省

実習に関する反省として記載された事項を整理したものを図6に示す。昨年度4位の「もっと質問をするべきだった」が18.4%で1位に、昨年度3位の「うまく話や説明ができなかったこと」が18.1%で2位になった。昨年度同率1位であった「基礎的、応用的な知識が足りなかった」は3位に落ちたが17.7%で率は変わらなかったものの、「集中力が途切れてしまった」は昨年度の17.7%から一気に13.4%に下がった。1位から3位まではほぼ同じような率であることから、順位については昨年度に比べて変化しているが、本質的には昨年同様であると言える。アンケートの自由記入欄に「もっと静岡県東部のインターンシッ

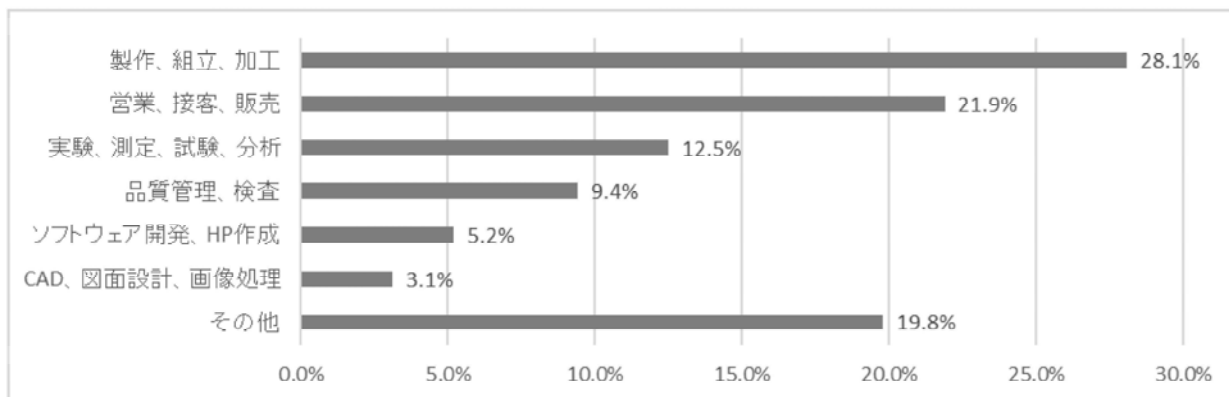


図3 実習内容の詳細

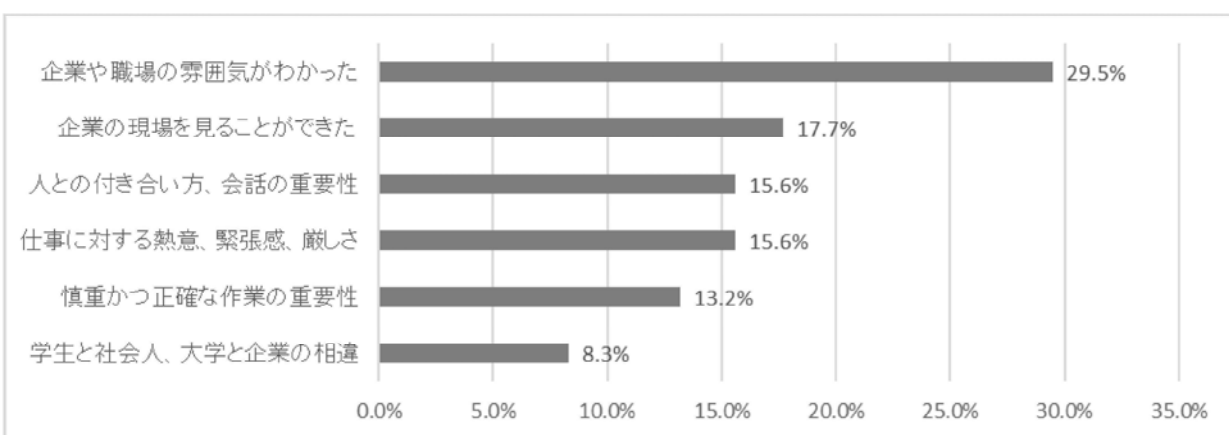


図4 実習によって得られた成果

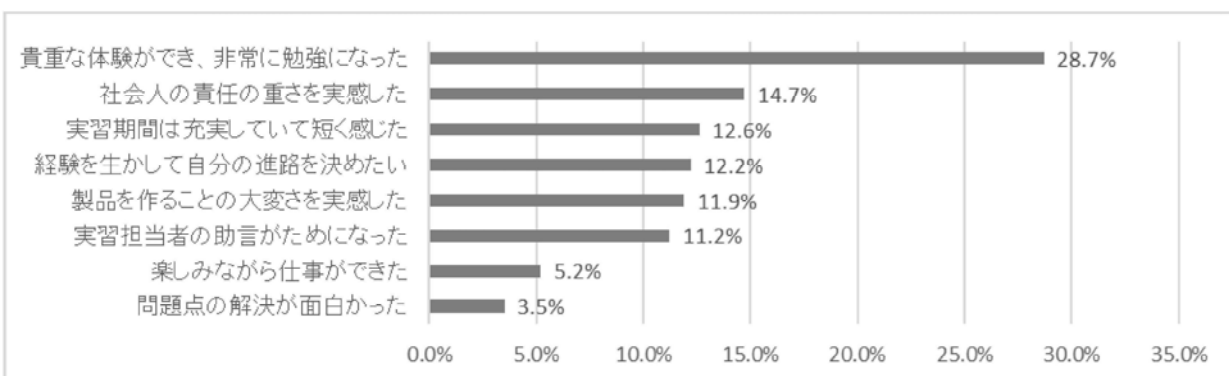


図5 実習に関する感想

を増やしてほしい.”，“静岡市内または静岡付近でインターンシップが出来る企業を増やしてほしい.”との意見があった。一昨年度の“浜松より西の実習先があまり多くなく、選択肢が少なかったのが少し残念”との意見も含めて、受入れ先企業の開拓に対する要望が多いように思われる。また、“インターンシップまでが短い.”，“準備期間を増やしてほしい.”などの意見もあった。これらの要望について、すぐに対応することは難しいかもしれないが、徐々に改善していく必要はあると感じた。

8. インターンシップ実習の評価（受入企業、訪問教員）

インターンシップ終了後、実施状況をできるだけ詳しく調査して問題点を把握するために、昨年と同様に受入企業、参加学生および訪問教員に対してアンケート調査を実施した。それらの結果について以下に述べる。

8.1 受入企業による実習生の評価

単位認定のため、学生の実習状況の評価を行う必要がある。そのため企業の実習担当者に依頼して、個々の実習生の実習状況に関する評価を求めた。評価は10の評価項

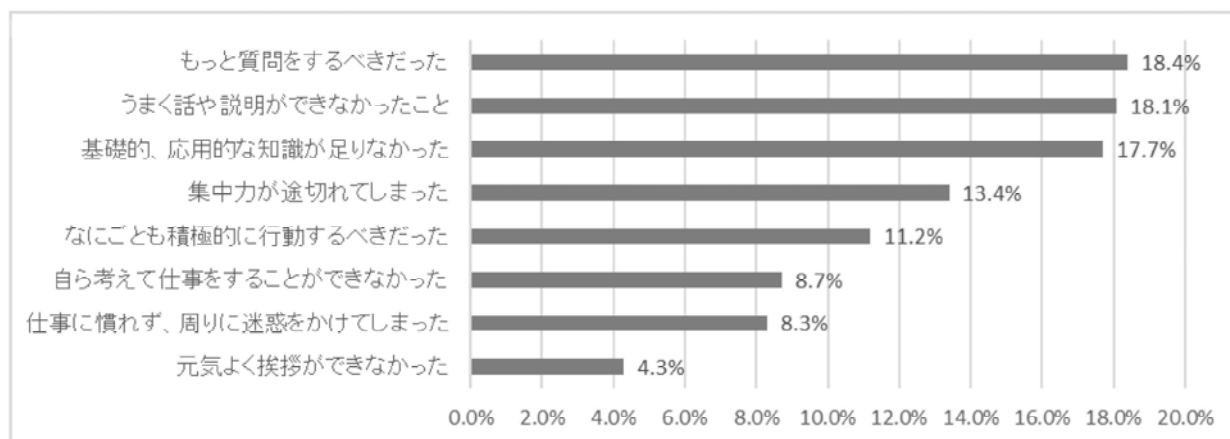


図6 実習に関する反省

表6 インターンシップ実習生に対する個人別評価 (5段階評価, 回答数98)

評価項目	評点					平均点
	大変良い	やや良い	普通	やや劣る	劣る	
	5	4	3	2	1	
勤務状況(欠勤, 遅刻, 相対などの状況)はいかがでしたか?	77	7	12	1	1	4.6
	78.6%	7.2%	12.2%	1.0%	1.0%	
勤務態度(言葉遣い, 挨拶, 返事などは)はいかがでしたか?	47	31	15	5	0	4.2
	48.0%	31.6%	15.3%	5.1%	0.0%	
実習内容はよく理解できていましたか?	41	37	19	1	0	4.2
	41.8%	37.8%	19.4%	1.0%	0.0%	
仕事に対し, よく実行・行動・努力していましたか?	47	30	19	1	1	4.2
	48.0%	30.6%	19.4%	1.0%	1.0%	
仕事は正確で良い結果を出していましたか?	39	37	21	0	1	4.2
	39.8%	37.8%	21.4%	0.0%	1.0%	
創意工夫の姿勢は見られましたか?	19	36	40	2	1	3.7
	19.4%	36.7%	40.8%	2.1%	1.0%	
仕事に対する積極性はいかがでしたか?	35	32	27	3	1	3.9
	35.7%	32.7%	27.6%	3.0%	1.0%	
責任感を持てていましたか?	43	32	20	2	1	4.2
	43.9%	32.7%	20.4%	2.0%	1.0%	
協調性はいかがでしたか?	48	22	24	4	0	4.2
	49.0%	22.4%	24.5%	4.1%	0.0%	
全体評価	44	35	16	2	1	4.2
	44.9%	35.7%	16.3%	2.1%	1.0%	

目について5段階で評価するものとした。その結果(回答数98)を表6に示した。評価の平均点は、昨年と全く同じ値(4.2)であった。個々の評価項目も昨年とほぼ同じ値であり、個別に見ると「勤務状況」、「内容理解」、「正確さ」、「責任感」、「協調性」が0.1上昇し、「実行・行動・努力」、「積極性」は昨年と同じ値であった。また、「勤務態度」、「創意工夫」は昨年より0.1下降した。さらに、今年度の特徴として、「勤務態度」、「積極性」、「責任感」、「協調性」について、「やや劣る」の評価を受けた学生の比率が昨年度(「勤務態度」:1.9%、「積極性」:1.0%、「責任感」:1.0%、

「協調性」:1.9%)より高くなり、また、「勤務状況」、「内容理解」、「実行・行動・努力」、「正確さ」、「積極性」、「責任感」、「協調性」については、「大変よい」の評価を受けた学生の比率が昨年度(「勤務状況」:68.6%、「内容理解」:34.3%、「実行・行動・努力」:41.9%、「正確さ」:33.3%、「積極性」:31.4%、「責任感」:36.2%、「協調性」:37.1%)より高くなった。また、「創意工夫」の項目については3.7と、昨年までと同様に他の項目が4点台にあることと比べて低い値である。これには主体的に考えることにより、さまざまなことを計画し、実行にうつせる能力を日頃の授業

や実験の中で育成する必要がある。現在、学内で検討、推奨されているアクティブ・ラーニング（能動的学修）の手法を日々の授業の中で実践していくことが望まれる。

表 7 にはインターシッパ実習生に対する個人別評価の所見として述べられた主要なものを示した。大多数の学生はきちんと礼儀正しく真面目に実習に取り組んだ様子が述べられている。また、実習を通じて、学生が成長していく様子を、企業の指導者がきめ細かく見守ってくれているような記述もあり、この点は企業の方に大変、感謝すべきことである。ただ、学生によっては、「声が小さい」、「返事や挨拶ができない」、「覇気がない」、「明るさと元気が欲しい」、「協調性に欠ける」、「コミュニケーションをとってほしい」、「就労に対する意識が低い」等のいくつかの厳しい指摘が見受けられ、そのような学生については、社会に出るに当たっては、さらなる指導が必要であると考えられる。

8.2 受入企業によるインターンシップの評価

受入企業担当者によるインターンシップに関する評価結果を図 7 に示した。昨年同様、いずれの項目も、90%以上の回答が「適切」あるいは「ほぼ適切」という結果となった。しかしながら、今年度は、「実習態度」で「やや不適切」、「不適切」の割合が昨年（「やや不適切」：1.9%、「不適切」：0.0%）と比べて若干高くなった。この点については、事前研修をさらに強化するとともに、インターシッパを受けるのに相応しくない学生については、実習を見合わせる措置も必要と考えられる。一部の企業からは、「事前に受け入れ企業と学生との面接を行い、学生の適性等を見極め、あるレベル以上の学生にだけインターンシップを実施させた方が望ましい」との意見が出ており、来年以降の実施にあたっての検討課題といえる。

8.3 学生によるインターンシップの評価

参加学生達自身によるインターンシップに対する評価結果を図 8 に示した。「実習内容」、「実習環境」、「指導内容」の満足度は昨年と同様高くなっており、また「適切」、「ほぼ適切」、「やや不適切」、「不適切」の回答数の比率も、昨年度とほぼ同じであった。11 月に学内で開催された参加学生によるインターンシップ報告会では、学生達の発表から、短い期間のインターンシップではあったものの、企業の

現場でさまざまな貴重な体験を得たことが報告され、また、そのことにより学生が一步成長した様子が見られたのは喜ばしいことであった。この体験が学生の就職活動をはじめとした今後の人生に役に立つことを願ってやまない。

8.4 実習先訪問担当教員の報告

本学教員の方々が、インターンシッパ先への御礼のご挨拶と本学学生の実習状況を確認するために 52 社の実習先企業を訪問した。各企業のインターンシッパ学生の受入れ担当者および実習学生本人と面談し、仕事の内容、状況、学生の対応などの観察・聞き取りを行っていただいた。この実習先訪問担当教員の訪問報告をもとに、学生の実習への取り組み、意欲そしてインターンシッパ先企業の実習内容に関して集計・分析を行った。

学生の実習への取り組みに関する調査結果をグラフにまとめたものが図 9 である。ほとんどの学生が真面目に取り組んでいたが、全体の 2%、52 社中 1 名の学生がやや不真面目という評価であった。教員から見てインターンシッパに取り組む学生が、真面目に取り組んでいると思われないということは、企業側から見ると印象は良くないことは明白であり、今後はインターンシッパに取り組む学生は、必ず真面目に取り組むことができる学生を選別する必要がある。

実習生の意欲に関する調査結果が図 10 である。ほとんどの学生が意欲的に取り組んでいる印象だったが、全体の 4%、52 社中 2 名の学生は普通つまり意欲的とはいえないという評価であった。意欲に関しても、今後インターンシッパに参加する学生は、普通以上の意欲をもって取り組むことができる学生の選別をしていきたい。

訪問教員によるインターンシッパ先企業の実習内容に関して、教育的であったか、実習プログラムは充実していたか、指導状況は良好か、指導困難な様子はなかったか、という項目に対する評価結果をグラフにしたものが、図 11 である。4 つ全ての項目において、「そう思う」、「ややそう思う」の評価合計で 80%を超えており、実習内容や、企業の指導者と学生の関係について概ね良い評価だったといえる。しかし、教育的であったか、実習プログラムは充実していたかの 2 項目に関して、ややそう思わないという評価があり、インターンシッパ受け入れに問題がある企

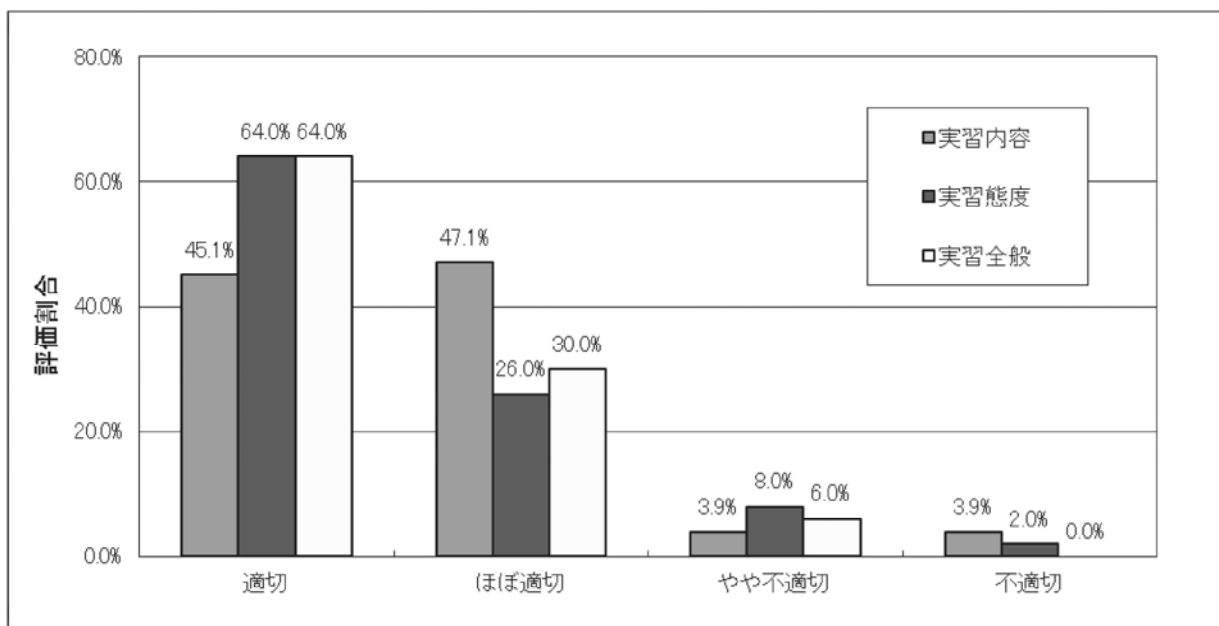


図 7 受入企業担当者によるインターンシップへの評価

表7 インターンシップ実習生に対する個人別評価の所見

<積極的な行動が評価された>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 真面目に取り組んでいて大変良かったと思います。 ・ 活発な態度で取り組んでいて非常に良かったと思います。 ・ ルーチンワーク的な繰り返し計測作業を手伝って頂きましたが、粘り強く作業をして頂きました。理系業務の基本的な素養をお持ちだと思います。 ・ プレゼンテーション資料の製作は手際がよく、想像していたよりも早くレベルも高かった。 ・ 最終日のプレゼンは堂々としたパフォーマンスでした。 ・ 勤務態度も良く、誠実で積極的な姿勢は好感が持てた。 ・ Aさんは、物作りに興味を持ち、誠実な姿勢で作業にあたる事が強みだと思います。 ・ Bさんは、細かい地道な作業に関しても、正確に対応できる事が強みだと思います。 ・ Cさんは、自分の意思をしっかりと相手に伝える事ができる事が強みだと思います。 ・ 品質管理の仕組み、検査の実務等、関心の強さが感じられ、前向きな行動に現れていた。ものづくりの全体感や化粧品の有機化学との結びつきについても興味を持って質問しており、理解を深めることになったと思います。 ・ 作業が終わって手持ちの際、社員に危機に来るなど積極性が見られた。 ・ 細かい作業を長時間集中してする事ができた。後半は社員ともよくコミュニケーションがとれていた。 ・ あまり器用ではなかったが、努力して丁寧に作業ができていた。 ・ 朝は早めに出社して、真面目な勤務態度でした。 ・ 礼儀正しい勤務態度で、評価は良好でした。 ・ 大変好感がもてる学生です。理解力も高く主体的な取り組み、Leadershipを発揮し弊社の講師全員からも高い評価をされておりました。学びの貪欲さ、行動力は今後社会人になるうえで成長の肥やしになります。是非、現状に甘んじず頑張ってください。 ・ 実習前後の変化率が一番高く、社会人になる自覚が芽生えてきております。potentialは高いので相手が理解できるように表現する努力をされると更によいと思われそうです。 ・ 何事にも積極的に参加され主体性が発揮されております。不得手な分野においてもTry&errorで取り組むことができました。 ・ 何事に対しても素直に取り組む姿勢に好感が持てました。 ・ 依頼した作業内容は根気が必要なものばかりでしたが途中で投げ出すこともなく、こつこつと作業していたことにたいへん辛抱強いと感じました。また、修正するのに口答えなどはなく、言われたことを正しく修正できたので、まじめで素直な人間だと感じました。 ・ 真剣に1つ1つの作業をこなしていました。 ・ 返事もハキハキとしていて良かったです。 ・ 常に冷静な対応ができており、習得すると確実な作業を行っていました。 ・ 言葉に元気があり、社内で接した大多数が好感を持ちました。 ・ 遠方から出勤にも関わらず、遅刻なく2週間しっかりと出社されました。非常に感心します。実習内容については弊社新入社員と力を合わせて最後までやり遂げましたので本人も自信を持っていただけたら嬉しく思います。 ・ 非常に真面目な性格だと感じました。また、発言の内容は、常に相手の事まで考えた内容になっており、思いやりのある方だと思いました。 ・ 明るい性格で常に笑顔で対応して頂きました。指示するこちらにも気持ちよく対応する事が出来ました。 ・ 人の輪に入ること、輪を自ら作る事に長けていた。 ・ 与えられた課題に真剣に取り組んでいた目的意識を持って実習に取り組んでいた。 ・ 大変真面目に取り組んでいました。サービス業ですので、もう少し明るさと元気があるともっと良かったと思います。 ・ 開発業務は理解出来ている。 ・ 礼儀正しく、言ったことに対しては、吸収力はあった。 ・ シェンズプログラムの作成で応用力があると感じました。 ・ シェンズプログラムを作成していただきました。初めての経験でも積極的に作成していただきました。 ・ 周りの人に気を遣い馴れない作業に頑張ってくれました。社会人はコミュニケーションが大切だと理解して和気藹々と接することができました。 ・ あいさつや返事など、基本的な実習態度について評価できた。また、試験検査の実習中は、積極的に質問し作業していたのでよかった。 ・ 緊張していたせいかややおとなしかったですが後半は積極的に行動しておりました。勤務態度も大変良かったと思います。 ・ 物事に対して自分の考えをしっかりと持っており感心しました。意欲的に仕事に取り組んでいただきました。 ・ 一見、元気がないというか覇気が感じられなかったのですが、挨拶が社会人の基本とお節介しました。翌日からは、

まだ声は小さいながら、自分から挨拶する姿勢が見られました。

- ・ 暑い中、メンテナンス作業を中心に頑張ってくださいました。また、パソコンを使った図面作成をすぐに体得して感心いたしました。
- ・ とても優秀な人財でした。弊社はインターシップ用メニューでは無く生の現場を体験して戴きました。何の為に行なっているのかを学んで戴けたらと思いましたが、質問も積極的に多くあり、この経験が本人の為になれば幸いです。
- ・ 実習開始直後はおとなしく消極的に見えたが、慣れてくると次第に疑問点が発生したら質問をしてきたり、休憩時には当社社員と会話するなど積極的な姿勢がみられた。
- ・ まじめに仕事に取り組んでくれました。この経験を今後の活動に活かしてください。
- ・ とても丁寧に作業をしてくれました。
- ・ 初めての仕事であったが内容の理解、取り組みの姿勢は大変良い。
- ・ 明るく笑顔で誰とでも話ができ、要領の良さが感じられました。声も大きく聞き取りやすいので子供相手の接客も臆することなく、すぐに慣れていたようです。自信を持った態度で接客できるので職場の雰囲気にも馴染み、戦力になってくれました。
- ・ 真面目で優しい性格が感じ取れました。初めての接客業で慣れない点はあったと思いますが、子供達と触れ合う中で徐々に打ち解けてくれたと感じます。積極的にお客様と話す姿勢も見られ、運営に役立ってくれました。
- ・ 好奇心が旺盛で、積極的に物事に取り組む姿勢が見られた。丁寧な対応で、体験館でのイベントやプラネタリウムの上映作業もすぐに慣れて無難にこなしてくれた。当方も安心していろいろと任せられました。(本人の希望もあり3名で唯一、プラネタリウムの投影作業も経験。)
- ・ 丁寧に仕事をおこなっていただきました。真面目さが特に際立っていました。
- ・ しっかりと仕事をこなしていました。
- ・ 話しをきちんと聞き業務をこなす姿勢がよかったです
- ・ 礼儀正しく、大変気持ちの良い学生さんでした
- ・ 非常にまじめに取り組んでいて、言葉遣いや所作もよかったです。初日から、最終日にかけて、大きく成長したように見えました。
- ・ 大変まじめで好印象でした。
- ・ 実習に対して積極的に取り組んでいました。ぜひ採用したいと思う学生でした。

<問題点の指摘があった>

- ・ 学生らしい若さがあまり感じられなかった。仕事中、仕事以外共にもっと自分をアピールして欲しい。
- ・ 時間を守りきちんと行動できました。もう少し自分から動く姿勢があると、もっとよくなると思います。
- ・ あいさつなど基本的なことは出来る印象です。もう少しコミュニケーションをとることが出来れば良いと思います。
- ・ 緊張していたせいか、おとなしかった印象があります。
- ・ 就労に対しての意識が低かったです。
- ・ 椅子に座っている姿勢や態度に少し気になる場所があった。
- ・ もっと大きな声で話しができると良いと思う。
- ・ 挨拶はしっかりと出来ていたが、もう少し元気良く挨拶出来ると良かったと思います。
- ・ 緊張していたのか、大人しい感じの印象を受けました。
- ・ 挨拶がもっとしっかりとできると良かったです。
- ・ 声が大きかったら、もっと良かったです。
- ・ 勤務態度については大きな問題等はありませんが、性格的なものなのか緊張しているのか、なかなか元気のいい姿、声を目にすることが出来ませんでした。
- ・ 本音で話してくれる事は、人事サイドとしては嬉しいが業務に対することとなると、もう少し我慢も必要ではないでしょうか。
- ・ 治したい点性格がおとなしい→若さを強調してほしい
- ・ 疑問点に対して質問等がない→積極性が劣る。
- ・ 事前に服装説明していた「半袖のYシャツ」を初日は長袖で出勤し、理由を聞いたところ「あると思っていたら無かった」との事。事前準備が出来ていない事が残念でした。勤務態度はまじめでしたが覇気が無く残念でした。
- ・ 仕事内容を理解していただければ、改善点など意見をもっと意見をいただけたと思います
- ・ 基本的な挨拶、返事が最後まで出来なかった。アルバイトなどをして社会経験を積んだ方が良いと本人にはアドバイスしました。
- ・ 他の実習生との協調性が少し気になりました。
- ・ 要所要所で確認→作業をするとより良くなると思います。言われたことはよくやっているが、自分で考えてどうするかまでの余裕はなく、工夫は足りなかったと思います。総じては、一生懸命やってくれたと思っております。
- ・ イージーミス(書類の記入漏れ等)があるので、その点は注意が必要。業務に対する取り組み姿勢は非常に良かったのでもったいない点です。
- ・ 緊張していたせいか、研修中は少し消極的に見えてしまった。

業がある可能性を示している。来年度以降は、インターンシップ先企業の慎重な選別が必要であろう。

訪問教員による訪問所見では、これまでに言われているインターンシップの効果に関して多くの肯定的な意見があったが、以下のような今後解決すべき意見も散見された。

- ・担当者の本音「企業・仕事体験の機会の一つとしてインターンシップを受講している学生が多いとは思いますが、×××として社会奉仕のつもりでやっているが、出来れば×××志望の学生が望ましい。」
- ・多くの業務が民間への委託業務となっており、市役所としての仕事は、基本的にはこれらを管理することであることから、自習先として適当であったかは難しい判断である。
- ・この会社は仕事内容として機械系・電気系両方あるがおそらく先方の都合上で機械系の仕事となってしまう職種はミスマッチになってしまったのではないかと推測される。（電気系学生を受け入れた企業）
- ・どんな学生でもインターンシップをさせるというのは、企業様に迷惑をかけることになるため、最低限のコミュニケーション能力も身につけていない学生をインターンシップに参加させることは控えた方がよいと考える。挨拶をしないと会社の人に注意されてもできない学生は、来年度にも出てくるのではないのでしょうか。これらの意見から、学生個人と企業とのマッチング、学生の専門分野と企業とのマッチングが重要な課題であることがわかる。このような貴重な意見を基に、来年度以降のインターンシップを、就職活動の支援、就職への意欲向上、そして学生の今後の社会人としての活動の糧となるように、種々の改善を行っていきたいと考える。

9. 平成 26 年度インターンシップのまとめ

本年度のインターンシップの取り組みを振り返り、以下のようにまとめる。

9.1 事前研修について

今年度の事前研修は、一昨年度、昨年度と同様に 3 回とした。全学的にもキャリア支援教育も進んでいることから、回数については 3 回の事前研修で必要十分であると考えられた。参加者数については、昨年度から特に第 1 回事前研修への参加者が 200 名を超えるようになり、本年度は 238 名の参加となった。特に第 1 回事前研修については、今後とも本年度と同様に 300 講義室など大きな講義室の確保が必要である。なお各学科、学部別の学生の参加率についてみると、総合情報学部の 2 学科については、いずれも昨年度の参加者数を若干上回ったが、理工学部の 3 学科（機械、電気電子、物質生命）については昨年度の参加者数をやや下回った。時間割の兼ね合い（前の時間があいていたため、帰ってしまった？）などが要因と考えられるが、理由を問わず、とにかく第 1 回事前研修には参加してもらえるように、ガイダンスの機会なども活用して様々な方法で学生へのアピールを強化する必要がある。

9.2 実習受入れ企業数について

今年度は依頼企業の状況を分析し、受入れの可能性のある企業に絞って依頼を行った。また、卒業生の就職先の中からもインターンシップ受入れの可能性のある企業を選別し、計 550 社（昨年度は 445 社）に依頼を行った。この結果、96（昨年度は 74）社、226（同 175）名分の実習テーマ受入申し込みがあった。このように、受入企業社数、人数については、昨年を 3 割ほど上回る数の実数を用意したにもかかわらず、本年度のインターンシップ参加者数は昨年度を若干下回ってしまった。このことは、既に積極的

にインターンシップに参加したいと言う学生は概ね参加しているということを示しているとも考えられる。しかし、今後もさらにインターンシップ受講者を掘り起こしていくためには、学生とのミスマッチを防ぐ意味でも、引き続き適切な実習先企業開拓が望まれる。

9.3 インターンシップ実習の評価

受入れ企業および学生自身の評価においては、例年「積極性」、「コミュニケーション能力」などの不足が指摘されているが、2014 年度はこれに加えて「創意工夫」の不足についての指摘が若干ではあるものの増加した。もちろん学生個人による差が大きいですが、これらの能力はインターンシップの事前研修だけで解決することは困難であろう。入学時からのキャリア教育全般や、PBL、アクティブラーニングの手法などを取り入れた初年度からの地道で継続的な指導がますます重要であると考えられる。大学全体として、さらなる改善に取り組む必要がある。

9.4 春期インターンシップについて

過去 2 年間に引き続き、2015 年春も春期インターンシップを行った。春期インターンシップについては事前のアンケートで受入れ可能と回答のあった企業に加えて、夏季インターンシップ実施時に春期も受入れを検討下さる意向を表明されていた企業 51 社（2014 年は 37 社）に受入れ依頼状を送付し、そのうち 27 社（同 22 社）からの受入れ申し込みがあった。学生募集については 2 年生、3 年生を中心に募集を行い、第 1 回事前説明会には 12 名（昨年は 19 名）の参加があり、最終的に実習を行った学生は 6 名（昨年度は 5 名）であった。

事前説明会の参加者数が伸び悩んだ理由は、3 年生についてはすでに夏季において参加した学生が多くなってきていることと、2016 年春卒業学生の就活日程後ろ倒しの影響が主な原因と考えられるが、2 年生については今後、アピール方法などの改善が必要である。事前説明会に参加しつつ春期インターンシップ受講を見送った学生に聴取したところ、夏季インターンシップほどの受入れ企業数が確保できなかった点、学生の希望および実習場所への通勤の可否から実習可能となる企業が限られる点、3 年生の実際の就職活動と時期が重なる点、などの理由があげられた。これは昨年度とまったく同じ傾向である。春期インターンシップについても受入れ企業サイドのご理解は徐々に得られてきており、来年度以降も、昨年度と本年度の結果を踏まえ、実施方法等を再考しながら春期インターンシップのあり方について検討が必要である。引き続き、十分な数の受入企業を確保できるよう、関係各位のご理解をお願いしたい。

9.5 その他

これまで、インターンシップ報告会については 10 月から 12 月まで、様々な時期に開催してきたが、12 月では実習終了からの期間が開きすぎているという意見が多く出されていた。他方、報告会はできるだけ学生および企業担当者双方の印象に残っている間に開催することが望まれるので、その点では 10 月の開催には利点があった。しかし、10 月開催ではプレゼンテーションで報告を行う学生の指導を依頼した助言教員の一部からは、準備期間が少なすぎるという意見もあった。このため、本年度の報告会については 11 月 5 日に行った。次年度以降の報告会についても、10 月末から 11 月上旬の間に開催することが望ましいと考えられる。

なお本年度のインターンシップ実施に際して、1 例ではあるが、受入れ学生とのマッチングの問題について企業サイドからのクレームが寄せられた。また例年、少数ではあるものの、マナーや態度など学生の資質や態度の問題等が

指摘されている。さらに過去においては挨拶に訪問する教員の対応等の問題が指摘されたこともあった。今後も事前研修等で、学生にその点を徹底するとともに、教員各位に依頼する際にも、念のため丁寧な対応について、ご配慮いただくよう改めて依頼する必要がある。今後も事前研修や日常の教育の機会を活用して、一人の学生の態度が、本学全体の評価を下げることも、また向上させることもあるという点について、しっかりと指導していくことが大切である。本年度は、幸い実習中の事故や怪我の報告は一件もなかったが、過去においては、深刻な事例ではないとはいえ、慣れない環境において、学生が事故を起した事例もあった。

来年度以降も、事前研修等を通じ、事故発生防止の指導を徹底していく必要がある。

最後に、様々な大学の先行的な事例によって、より長期のインターンシップや海外インターンシップなどが学生のキャリア教育に大きな効果をもたらすことが明らかになってきている。インターンシップで企業とより深い関わりを学生に持たせることについては、正課の授業との両立や海外の安全面の確保、費用負担等の問題もあるだろうが、グローバル人材への産業界の要望も年々強くなっていることから、本学に相応しいあり方について、今後のさらなる検討が必要であると考えられる。

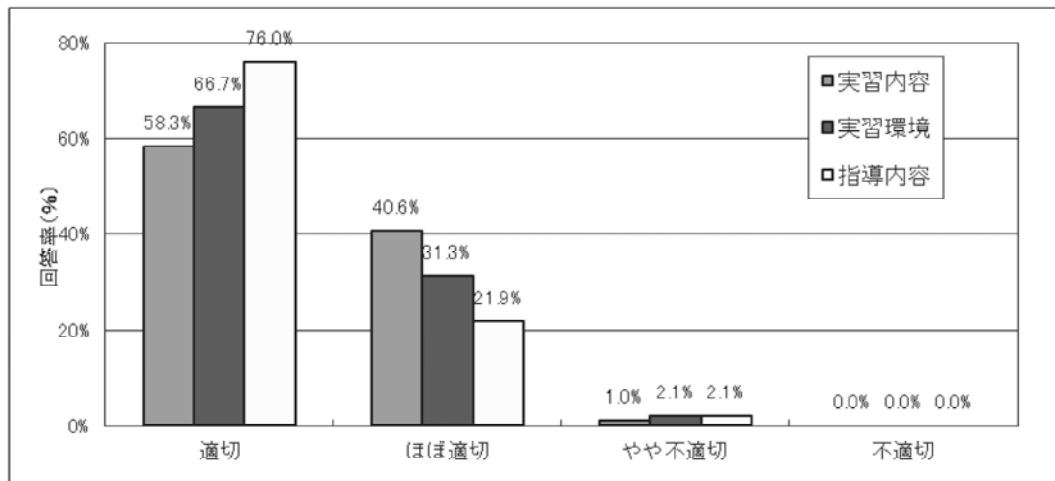


図8 参加学生による実習内容、環境、指導内容への満足度

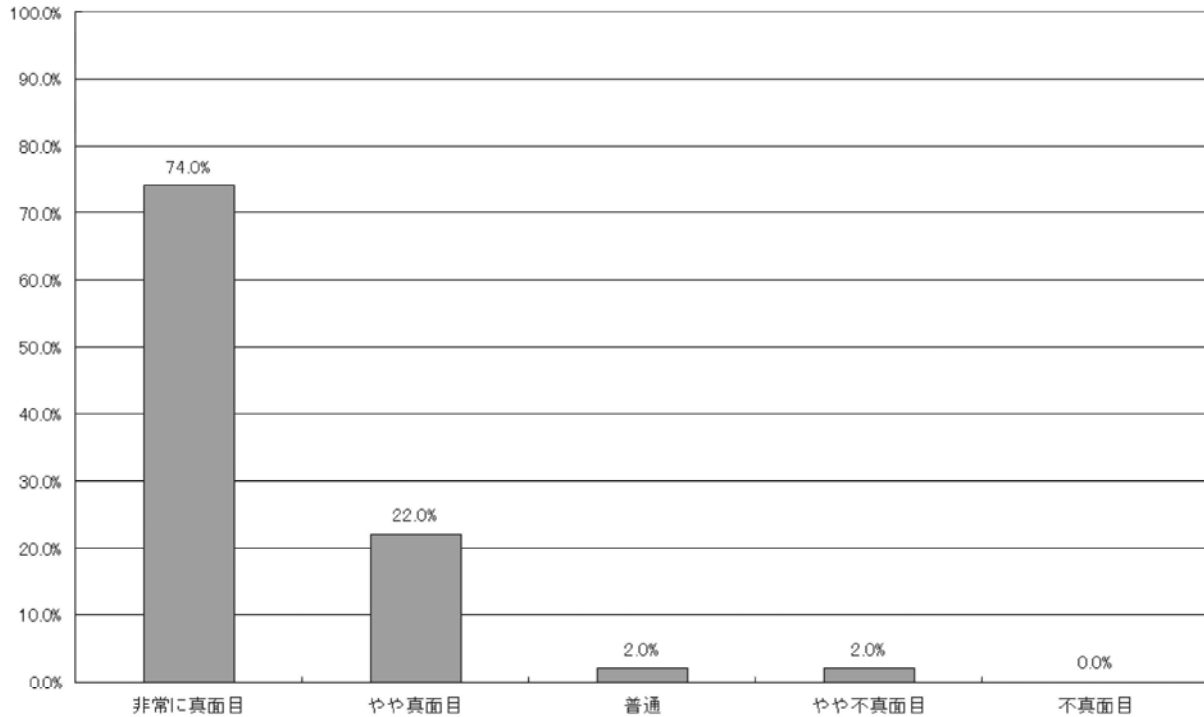


図9 実習学生の取り組みに対する訪問教員の評価

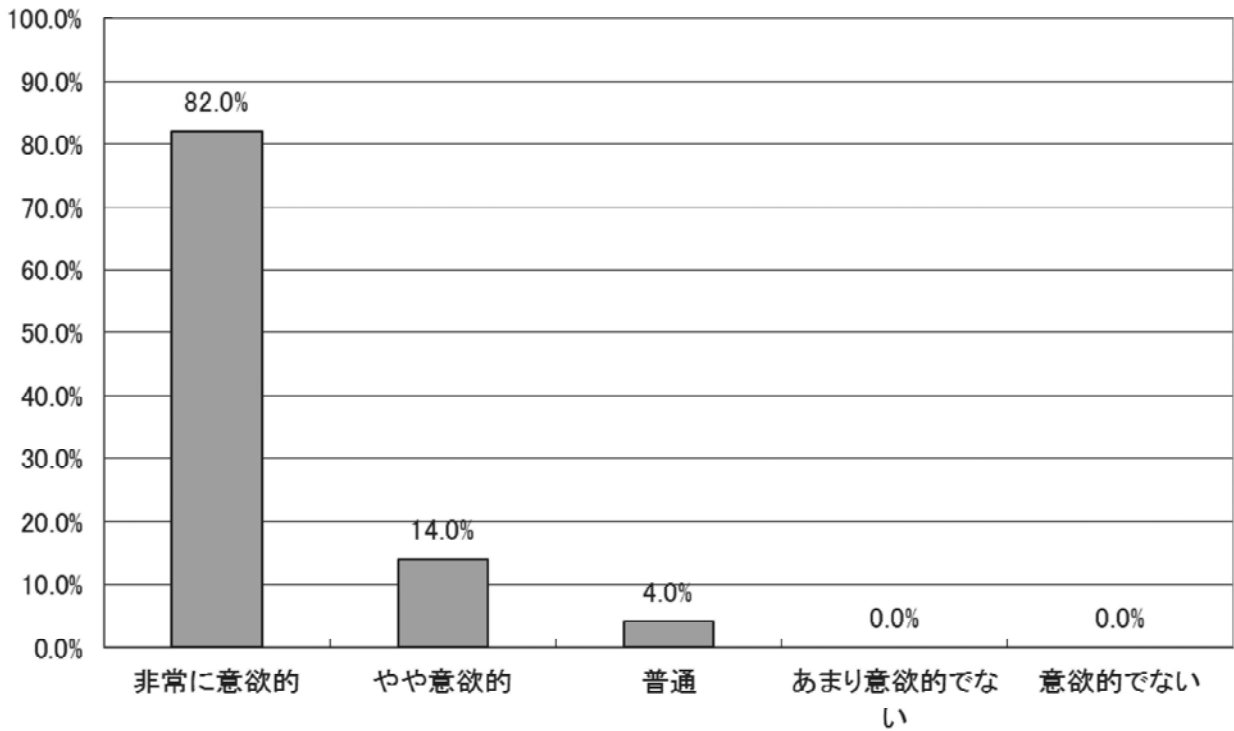


図 10 実習生の意欲に対する訪問教員の評価

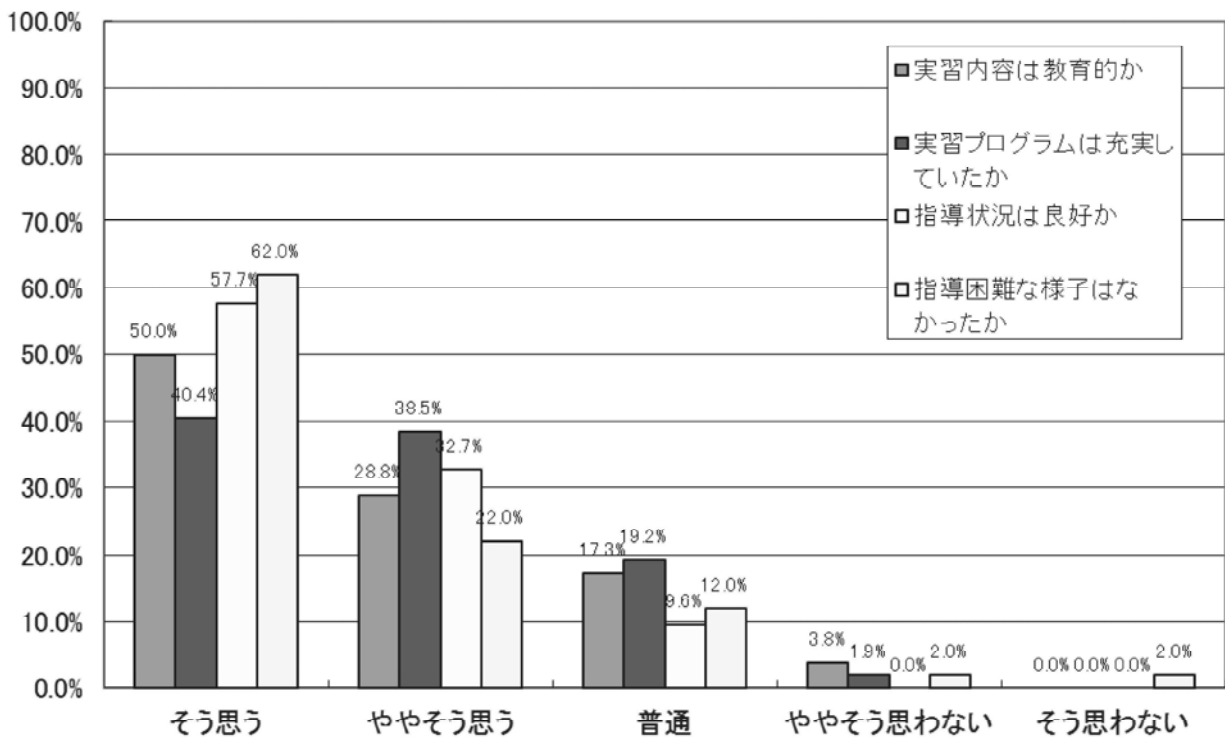


図 11 訪問教員の受入事業所への評価と要望

10. 謝辞

本年度のインターンシップ・プログラムを実施するにあたり、ご協力をいただいた企業および事業所の担当者の皆

さま、報告会で発表をご担当いただいた皆さんに心から感謝致します。

参考文献

- 1) 文部省編, インターンシップ・ガイドブック, インターンシップの円滑な導入と運用のために, 1998.
- 2) 丹羽昌平 他, インターンシップで学生は何を得たか?—平成14年度インターンシップ実施報告—, 静岡理工科大学紀要, 第11巻, 2003, 281—303.
- 3) 丹羽昌平 他, インターンシップ実施5年間のまとめとこれからの展望—平成15年度インターンシップ実施報告—, 静岡理工科大学紀要, 第12巻, 2004, 299—320.
- 4) 丹羽昌平 他, 平成16年度インターンシップ実施報告—インターンシップの教育効果の向上のために—, 静岡理工科大学紀要, 第13巻, 2005, 95—104.
- 5) 丹羽昌平 他, 地域社会との連携による実習体験教育, 工学教育, 第53巻第4号, 2005, 23—29.
- 6) 惣田昱夫 他, 平成17年度インターンシップ実施報告—事前教育の充実による教育効果の向上—, 静岡理工科大学紀要, 第14巻, 2006, 163—174.
- 7) 富田寿人 他, 平成18年度インターンシップ実施報告—キャリア教育メイン・プログラムを目指して—, 静岡理工科大学紀要, 第15巻, 2007, 127—139.
- 8) 富田寿人 他, 平成19年度インターンシップ実施報告—参加学生の増加を目指して—, 静岡理工科大学紀要, 第16巻, 2008, 117—129.
- 9) 富田寿人 他, 平成20年度インターンシップ実施報告—参加学生の増加を目指して—, 静岡理工科大学紀要, 第17巻, 2009, 163—174.
- 10) 山庄司志朗 他, 平成21年度インターンシップ実施報告—参加学生の増加を目指して—, 静岡理工科大学紀要, 第18巻, 2010, 145—155.
- 11) 山庄司志朗 他, 平成22年度インターンシップ実施報告—参加学生の増加を目指して—, 静岡理工科大学紀要, 第20巻, 2012, 119—131.
- 12) 石田隆弘 他, 平成23年度インターンシップ実施報告—参加学生の増加を目指して—, 静岡理工科大学紀要, 第20巻, 2012, 107—118.
- 13) 石田隆弘 他, 平成24年度インターンシップ実施報告—一貫したキャリア教育を目指して—, 静岡理工科大学紀要, 第21巻, 2013, 153—166.
- 14) 奥村哲 他, 平成25年度インターンシップ実施報告—より多くの学生のためのキャリア教育を目指して—, 静岡理工科大学紀要, 第22巻, 2014, 105—119.